

～ シリアル・ルネッサンス～ <http://www.riceisland.co.jp>

「日本の原風景、棚田」・

棚田とは何か？

山の斜面を利用し石垣で段々を作り区切っている、美しい曲線を描いた千枚田が棚田です。…その歴史は、幕末から近代にかけて作り上げられてきたとみられます。棚田以前の山の利用は、焼畑によって山栗・そば・里芋・ひえ・大豆・小豆などが順番に植えられ、山奥の住人の重要な食料となっていました。

棚田は米を生産するだけでなく、その環境に与える役割は重要なものがあります。雨などによる大水を溜めて、水が一気に流れ落ちるのを防ぐダム役割、降り注いだ雨を浄化し絶えず流し続け土壌を保全すること、その石垣は様々な動植物の生息の場となること、などのすばらしい機能を合わせ持ち、日本人のこころのふるさとである里山の景観を作り上げてきました。

存続の危機に面している棚田

…棚田の管理・作業にはものすごい労力がかかり、その農作業も特異である。農道もなく、小さな区画の千枚田では、一部の耕耘機、草刈機、収穫後の脱穀機、籾摺り機の使用などを除いてはすべて手作業で行われている。(作業実態は近世以来の伝統的な農法に近い。) また平坦地の水田に比べて作業の種類が多く、労力がかかり、そのことが労働日数の多さ、生産性の低さに結びつく要因となっている。田直し、畦づくり、畦塗、クリ、畦の草刈、水管理などは平地では見られない作業である。とある棚田のデータによると、これらの作業と資材費を含めた費用は、全国平均の約4倍にもものぼり、千枚田の耕作がいかにかかりの多さを裏付けている。…ただでさえ農村地帯の過疎化がすすむ中、後継者が育たずその農法や畦の管理方法が風化しつつあります。

棚田の保全に向けた様々な取り組み

…高知県梼原町にある棚田では、平成4年から千枚田オーナー制をスタートした。棚田後継者の減少へ歯止めをかける狙いと、都市住民の農業をしたいという願望を一致させた取り組みを行い、全国的に広がっている。ある地域では、地区の棚田を観光資源として位置付け、それを目的としたグリーン・ツーリズム客を誘致することで、地区全体の活性化を狙う動きも出てきている。

また、棚田米を天然米として、ブランド化し付加価値をつけて販売するだけでなく、地域の食材を見直し活かすという観点から学校給食導入への動きもある。

…棚田学会ではこうした動きを結び、自治体関係者、研究者、従事者(農業、食品加工)NPO関係者の情報の交流を行うとともに、棚田の歴史・社会的・環境的な役割を解明し棚田保全へ取り組んでいます。8/3には第5回棚田学会大会が「市町村合併で棚田はどうなる」というテーマで開催されました。また、9/5～6には、岐阜県恵那市坂折棚田で第9回全国棚田サミット「棚田とともに生きるふるさと 保全と整備」が開催されました。

R.Iは平成14年8月30～31日、千葉県鴨川市大山千枚田で開催された棚田サミットに出展しました。その際には、生産者や自治体、農協関係者に「棚田で雑穀を生産し、付加価値のある穀物作り。」を提案いたしました。R.Iの産地開発に対する取り組みの中で、忘れ去られつつある棚田などにも光をあて、各地域の特徴・実情に合わせた日本の農地の保全にお役に立ちたいと考えております。

来週のR.Iレポートは、「キノア」です。10/20のお届けです。

e-mailでの発信も承っております。ご希望の方はチェックしてご返信ください

不要の方はチェックしてご返信ください。

FAX 058-252-5115

TEL

御社名

担当様

e-mailアドレス